VOL.2 秋号 2014年

この冊子は、双葉郡出身の皆さんへお送りしています。

ふたばの教育

ふたばからのおたよりです。

特集

双葉郡の中高一貫校「ふたば未来学園高校」が開校します！

応援団結成

「ふたばの教育を応援します!」

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局

中高一貫校で、先進の学びが始まります。

こんにちは！

双葉郡に中高一貫校が開校します！

福島県教育委員会教育長
杉 昭重

東日本大震災から３年半が過ぎましたが、小中学校においては、現在も臨時休業中の学校が６校、他施設へ移動または仮設校舎で教育活動を行っている学校が４５校あります。厳しい状況の中、子どもたちの教育に尽力されている双葉郡をはじめとする関係市町村教育委員会のご努力に心からの敬意と感謝を申し上げます。

高等学校においてもサテライト校として県内各地に分散している学校が８校あり、県教育委員会といたしましては、一日も早くサテライト校の教育環境を改善するため、関係機関とこれまで検討を重ねてまいりました。

2015年４月に広野町に開設する新たな中高一貫校は、単にサテライト校の集約を図るのではなく、双葉郡の皆さんと子どもたち一人一人の思いや意志をしっかりと支え、力強く生き抜く人材を育てていくこと、明日の日本を支えていく人材を福島から輩出していくことなどを目指しています。

新設中高一貫校では、生徒が自立し、たくましく歩んでいく力を身につけるための課題解決型学習を、さまざまな教科・科目において実践していくことを大きな特徴としています。また、環境教育・防災教育・国際教育といった多様な学びを展開することにより、生徒一人一人の人間力を育むことができるよう教育課程を編成しています。

これらの特色ある教育を実践するとともに、地域の方々や、さまざまな分野の第一人者として活躍されている方々にもサポートをいただきながら、「地域から世界へ、そして未来へと、広く社会に貢献する人材の育成」を目指していきます。

新設される中高一貫教育のグランドデザインが出来ました。

2015（平成27）年、広野町に中高一貫教育に取り組む新たな県立高校を開設します。その教育内容は下記の通りです。

現在サテライト校となっている双葉郡の県立高校５校の特色を引き継ぎながら、震災・原発事故からの教育と地域の復興に向け、わが国や世界に貢献できる「強さ」を持った人材を育成することを目標に、先進の教育内容で、カリキュラムを実践していきます。生徒の自発性を重視し、主体的な活動を引き出す教育を展開します。

応募要項など詳しい案内は、福島県教育庁高校教育課まで。
TEL：024-521-7771
http://www.koukou.fks.ed.jp/htdocs/?page_id=92

高校の名称が「ふたば未来学園」に決定しました！

『ふたば』は地域名であるのと同時に、植物が成長するエネルギーと可能性を表します。『未来』には生徒一人一人の輝かしい将来や、郡や県の復興の未来を担う学校になっていくことへの願いが込められています。

第8回子供未来会議（7月6日）では、皆で学校名の選定（314案→33案まで）を行いました。

中学校

総合学習（ふるさと創造学）

双葉郡の中学校
（双葉郡出身の中学生）

連携型
選抜

連携型選抜の募集区分
（連携型・Ⅰ期共通）

A型（学業）
B型（スポーツ）
C型（生徒会活動・目的意識）

双葉郡以外の県内外中学校

Ⅰ期
選抜

高等学校

主体的な学習（アクティブラーニング）（課題解決型授業）

1年次（地域に学ぶ）	2年次（日本・世界に学ぶ）	3年次（未来を考える）
基礎的学び	**発展的学び**	**応用的学び**
地域について広く学習する。	自分の課題を意識し、積極的に探求する。	個人研究を行い成果を発信する。
産業社会と人間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
ふるさと創造学	学校設定科目	課題研究
	課題研究	

先進の学びで 地域へ、日本へ、世界へ社会に貢献する人材の育成

アカデミック系列
（大学進学を目指す系列）
文系科目群　理系科目群

トップアスリート系列
（トップアスリートを目指す系列）
バドミントン／サッカー ／ゴルフ
スポーツ科目群

スペシャリスト系列
（職業人を目指す系列）
工業科目群　福祉科目群　農業科目群

主体的な学習（アクティブラーニング）（課題解決型授業）

特徴

コース
3つの系列があり、自分の興味・関心、進路希望に応じて、それぞれの系列の科目群にある選択科目から自由に選び、学ぶことができます。

資格取得
夢を実現するために、TOEFL、TOEIC、測量士補、造園技能士、簿記、情報処理や工業関係、福祉関係の資格取得のための学習ができます。

環境・施設
実習室や体育施設など、充実した学習環境を整えます。また、遠方から進学する生徒のために寄宿舎と食堂を完備します。

課題解決型授業
（アクティブ・ラーニング）
「ふるさと創造学」で地域について学び、自分の将来へ向けた課題について継続的に調査、研究等に取り組むなどして、実践力を育んでいきます。

サポートと連携
各界の第一人者や地域の方々による講演や出前授業など、生徒一人一人の発展的、応用的学びを様々な形でサポートします。

募集
双葉郡の中学校に在学している生徒、または震災時に双葉郡の小学校に在学していた生徒は、連携型選抜で受験することができます。

ふたばの教育に強力な仲間が増えました。

「ふたばの教育復興応援団」が設立 されました。

２０１４年７月１０日。各界の第一線で活躍されている有志の方々が、新設する中高一貫校での教育をはじめ双葉郡の教育復興にむけた様々な取り組みを応援する「ふたばの教育復興応援団」を設立して下さいました。今後、中高一貫校や双葉郡の小中高校での授業や部活動等への協力、校歌や制服の作成等の双葉郡の中高一貫校の立ち上げへの協力、子どもたちが地域の方との絆を深めるお祭等の支援をいただけることになっています。

応援団の皆さんからは、「“前例なき環境には前例なき教育を”の想いで、双葉郡の教育復興にライフワークで取り組みたい」、「地元の皆さんと手を携えて、自分が今15歳なら通いたいと思える学校にしたい」「新しい中高一貫校に、我こそはと挑戦してくれる皆を待っています」など、力強いメッセージを頂いています。

ふたばの教育を通じて多くの方々の支援・応援を受け、日本や世界の未来に真剣に向き合い夢を描きながら、大きく成長していきましょう。

FUTABA SCHOOL PROJECT

ふたばの教育復興応援団メンバー紹介（50音順）

作詞家
秋元 康さん

建築家
安藤 忠雄さん

マサチューセッツ工科大学（MIT）メディアラボ 所長
伊藤 穰一さん

作家、東京都教育委員
乙武 洋匡さん

復興大臣政務官、衆議院議員
小泉 進次郎さん

日本一面白くて
ためになる学校を
つくります！

三菱総合研究所 理事長、元東京大学 総長
小宮山 宏さん

クリエイティブディレクター
佐々木 宏さん

先生として
授業や部活動に
登場します！

元オリンピックバドミントン選手
潮田 玲子さん

一般社団法人アスリートソサエティ 代表理事
為末 大さん

俳優
西田 敏行さん

読売新聞特別編集委員
橋本 五郎さん

東進ハイスクール・東進衛星予備校現代文講師
林 修さん

劇作家・演出家、東京藝術大学 特任教授
平田 オリザさん

東京藝術大学 学長
宮田 亮平さん

クリエイティブディレクター
箭内 道彦さん

宇宙飛行士
山崎 直子さん

詩人
和合 亮一さん

「動く授業」
やります！

FUTABA SCHOOL PROJECT

ふたばの教育に寄せる想い ～応援団メンバー対談～

前ページで紹介した、各界の有志による「ふたばの教育復興応援団」。
そのメンバーの方々が、今後関わってゆくふたばの教育に対して
意欲や想い、取り組んでいきたい授業のイメージなどを語り合いました。

対談1

衆議院議員
小泉進次郎さん
×
東京都教育委員
乙武洋匡さん

小泉進次郎さん（以下：小泉） 双葉郡の教育長さんから教育復興を応援して欲しいと相談を頂いた時、応援団のアイディアを乙武さんにご相談したら、即座に賛同して下さいました。ありがとうございます。双葉郡は今、前例ない環境にあります。私は、前例なき環境には前例なき教育が必要だと考えました。双葉郡の子どもたちは「双葉郡子供未来会議」で、これからの自分たちの学校がどうあって欲しいか、たくさん話をしてきています。子どもたちからは「机にしがみつく授業ではなく、動く授業をしてほしい」「笑顔で世界とつながる学校にしたい」「夢を見つける小さな窓がたくさんある学校にしたい」という声が出ました。子どもたちは、これまでの学校に戻すだけではない、新しい学校づくりを求めています。私は、こういう子どもたちの声に応えていく前例なき教育を創り出すことが、私たち大人の責任だと思います。応援団の一人一人が「小さな窓」となって、子どもたちに夢を見せていく、そのような自分たちも通いたかった夢の学校を創りたいと思っています。

僕らが「窓」となって子どもたちに夢を見せたい。
小泉進次郎さん

乙武洋匡さん（以下：乙武） 震災が起こって、色々なことを考えさせられました。エレベーターが止まったり、様々な不具合が生じると、普段はあまり意識することのない障害というものを目の前に突きつけられ、無力感に襲われました。知人がばんばんボランティアに行く中で、僕に出来ることは何か無いかと悔しかった。今回、応援団として協力できることを嬉しく思っています。

小泉 人は誰もが色々なものを乗り越えてきていますが、乙武さんが乗り越えたことはハードルが高いことがいっぱいあったと思います。乗り越えてきた経験、生き様を持ちながら今は東京都の教育にも街づくりにも関わっていて、僕は乙武さんにしか開けない心の窓があるような気がするのです。乙武さんの経験が双葉郡の若い彼ら彼女たちに力を与えてくれると思います。

乙武 今までの教育は、先生が知識を教える、学び手はそれを頑張って暗記する、それが勉強である、学びであるとされてきました。知識を身に付けることはもちろん大事ですが、あまりにもそこに偏りすぎてきたんじゃないか。もっと「自分はこう考える」「僕が、私が出した結論はこうである」と言うことも重視していかないといけないと思います。ひとつの価値観で物事を考えてしまうのはもったいない。「もっとこういう考え方もできるのではないか」と、周囲に流されることなく、自分の頭で考えられる力を養っていきたいのです。

小泉 乙武さんと僕はプライベートでも仲良いですが、色々なことで意見が違いますものね。

乙武 そうそう。何か意見が違っただけであいつはダメだという全否定につながってしまう。これでは何も生まれない。お互いそれは尊重していこうということが大事だし、これまでに欠けてきた部分だと思います。

小泉 本当に自分が小６、中学生だったことを想像しても、その時にあれだけの震災と原発事故が起こったら自分の気持ちがどうなったか、やっぱり分からないです。それだけの辛い体験をしながらも、双葉郡の子どもたちはとても頑張っています。

乙武 うん。僕自身こういう身体に生まれてきて、一般的には不幸な境遇で、「なんて可哀想なんだ」と思われてもおかしくない。ところが僕は、たまたま両親の愛に恵まれ、学校で素晴らしい先生に恵まれ、友人に恵まれ、ご近所の皆さんに恵まれ、こうして毎日が本当に幸せで充実している人生が歩めている。つまり誰もが、周りの環境や教育によってはハッピーになることが出来るということを自分の人生で証明していきたいと思っているんです。そういう意味で考えると、あの震災はやっぱりどう考えても無かった方が良いに決まっているし、時計の針を戻せるなら戻したい。でもそんなことは誰にも出来ない。やっぱり受け止めるしかない。でもそれを何とか僕ら大人の働きかけによって、それを経験した子どもたちが大人になった時に「あぁ、自分たちはあの震災を経験したからこそ今この幸せな人生がある」と思って欲しいし、思えるようにするのが僕ら周りに居る大人の使命だと思っているんです。僕が今「むしろ障害があって良かった、こういう身体に生まれたからこそ使命を感じながら生きていられている」と思えるのは、周りの大人たちのお陰であったように、今度は僕らがしていく番だと思っています。

あの経験したから今があると、将来思えるように。
乙武洋匡さん

小泉 双葉郡でそんな授業を実現するために、引き続き頑張りましょう。これから宜しくお願いします。

乙武 洋匡（ひろただ） 1976 年生まれ
作家・東京都教育委員
障害者としての生活体験を綴った著書『五体不満足』がベストセラーになり、報道番組にも出演。2000年、都民文化栄誉章受賞。2007年より3年間、杉並区立杉並第四小学校教諭を務める。2013年、東京都教育委員に就任。

小泉 進次郎 1981 年生まれ
復興大臣政務官・内閣府大臣政務官・衆議院議員
2009 年に衆議院議員初当選。東日本大震災発生直後から被災地に入り支援活動を行う。自民党青年局長就任後、毎月 11 日に被災地を訪問する活動を開始。現在は内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官を務めている。

対談2

衆議院議員
小泉進次郎さん
×
東京藝術大学特任教授
平田オリザさん

小泉進次郎さん（以下：小泉） オリザさんはこれまで色々な学校で教育にあたられましたよね。

平田オリザさん（以下：平田） 僕は、小学校中学校の国語の教科書の編集委員をやっていたり、いわき総合高校へは10年以上前から教えに行っていたり、色々な学校で教えています。そして、先生方向けのワークショップもたくさんやっています。新しい中高一貫校や双葉郡の学校では子どもたちへの授業に加えて先生方向けのワークショップを行いたいと思っています。

放射線や原発のことに向き合い、学ぶことも必要ですね。
小泉進次郎さん

小泉 それおもしろいですね。ふたばの教育復興は「前例なき環境に前例なき教育を」と言う想いで取り組みたいのです。学校の先生も「前例なき教育をするんだ」という意識を持って変わっていっていただけると良いと思います。そうした新しい学校では、全ての当事者が子どもたちと一緒に悩み成長することが必要だと思うのです。

平田 先進的な成功している学校は先生方や事務の方まで研修を受けに来るんです。毎日地道に生徒を見る先生方が授業を工夫して、授業を楽しくすることが大切なので、僕はそのつなぎのような役割。ふたばでもできるだけ下働きもしたいと思っています。

小泉 双葉郡の未来を考えた時に、避けて通れないのは原発のことです。放射線や原発のことを不安に思っている子どもたちに、しっかりと向き合う必要があります。応援団のメンバーである宇宙飛行士の山崎直子さんに聞いたのですが、宇宙飛行士は毎日1mSVをあびるそうです。そのため、放射線のこともたくさん学ばれているし、体験的に語れることがあります。

平田 僕の立場は表現であり、放射線や原発について学んだ知識を、次に外側の人にどうすれば納得してもらえるかが仕事。全国や世界の人にふたばのことを伝え、風化を防ぎ、世界の支援も集め続ける表現という分野の力を育てることに協力したいと思っています。

小泉 そこが演劇の大きな力ですね

平田 演劇はそういうことを２５００年もやってきたので、一番ノウハウを持っています。他者理解と他者に対する発信力。また、今までは情操教育や表現力という緩い目的だったけれども、集団でやる芸術なので合意形成能力にもつながるのです。文部科学省も注目していますが、集団でやる芸術なので、自分と価値観の違う人と舞台を創ることになったとしても、幕が開いちゃうんです。幕が上がるまでにどうにかしてうまくやっていかないといけない。そういう力は福島の子どもたちにとって最も重要なことだと思います。原発や放射線について、意見が違う人とどうしていくのか。意見の違う人を「あいつとは違う」と排除しちゃうのではなくて、「そういう考え方もあるのか」と、違いを楽しみながら意見を交わせる、したたかなコミュニケーション力をつけていって欲しいです。

小泉 改めて、主体的に中から関わる応援団の一員としてどんな思いを持たれていますか。

平田 大人は色々な期待を込めてプログラムを組んだりする。それも大切ですが、僕は一番学校で大事なのは楽しいことだと思っている。演劇は役割分担が出来る。先生方に良く言っているのですが「おとなしい子に無理に声を出させなくて良いんです。おとなしい子は、おとなしい子の役をやったら一番上手いんです」それを無理に大人が大きな声を出させようとするから萎縮しちゃうんです。役割分担も福島にとって大事なことで、演劇を通して役割分担を学びながら、弱者に対する視点を持った大人に育って欲しい。そこが僕が出来る一番大事なお手伝いだと思います。

価値観の違う人と共に創造する力を楽しく育みたい。
平田オリザさん

小泉 「おとなしい子は、おとなしい子の役をやったら一番上手い」確かにその通りですね。

平田 それから、僕はたくさんの大学や高校の立ち上げをやってきましたが、一期生はどこでもイイんです。やっぱり、自分たちで伝統を創っていこうという気概が生まれるのか、勢いが違う。あと、ある大学の先生が、「震災後に東北から入学してくる子たちはふるさと復興への想いが強くて、意欲が抜きんでている」、「あの子たちは地域の宝だ」と言っていました。ふたばの子どもたちや、新しい一貫校に入学する子たちは「福島の宝」なんです。福島の新しい文化を創っていく人材を育てていきたいですね。

小泉 応援団で一緒に創りあげることがますます楽しみになりました。頑張りましょう。

平田 オリザ 1962 年生まれ
劇作家・演出家・東京藝術大学特任教授
実践的で新しい演劇理論を提唱し、国内外の演劇界に強い影響を与える。全国の学校でも演劇を取り入れた教育プログラム開発に注力し、2002年度からは教室で演劇をつくるワークショップ手法が国語教科書に採用された。

今回ご紹介した方以外の、ふたばの教育復興応援団の方の動画をホームページで公開しています。ぜひご覧ください。
福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会ホームページ　http://futaba-educ.net/fsp

双葉郡教育復興ビジョン
推進協議会事務局長
庄野 冨士男

一緒に、未来へと歩んでいきましょう。

私は避難した時にある保護者から言われた一言が忘れられません。「先生、どこへ避難すればいいですか。学校があればそこへ行きますよ」。それ以来、なんとか双葉郡に新しい学校ができないかと夢見てきました。6年間継続して学べる、中学校併設型の中高一貫校がそれです。2015年４月には、双葉郡中高一貫校が連携型で開校します。この広報誌「ふたばの教育」が双葉郡出身の皆様の心のよりどころとなることを、そして未来への足がかりとなることを念じております。「長い坂道を上れば、すばらしい景色が見えてくる」。この言葉を信じて、前へ、そして未来へと歩んでいきましょう。

1948年生まれ。被災時は富岡町教育長として児童生徒の避難先確認や三春の地での学校再開、そして子供と親の再会の集い開催に当った。現在は事務局長として福島大学人間発達文化学類支援室で勤務している。

ふたばの教育に関するお問い合わせは、各町村の教育委員会までお願いします。

●川内村教育委員会
〒979-1201
福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15
コミュニティセンター内
電話:0240-38-3805　FAX:0240-38-3807

●葛尾村教育委員会
〒979-1602
福島県田村郡三春町大字貝山字井堀田287-1
葛尾村役場三春出張所
電話:0247-61-2850　FAX:0247-62-0282

●浪江町教育委員会
〒964-0984
福島県二本松市北トロミ573番地
浪江町役場二本松事務所
電話:0243-62-0301　FAX:0243-22-4223

●大熊町教育委員会
〒965-0873
福島県会津若松市追手町2番41号
大熊町役場会津若松出張所
電話:0242-26-3844　FAX:0242-26-3786

●楢葉町教育委員会
〒970-8036
福島県いわき市平谷川瀬1-1-1
電話:0246-25-5561　FAX:0246-25-5564

●双葉町教育委員会
〒974-8212
福島県いわき市東田町二丁目19-4
電話:0246-84-5210　FAX:0246-84-5212

●富岡町教育委員会
〒963-8025
福島県郡山市桑野2-1-1
電話:0120-33-6466　FAX:024-953-6304

●広野町教育委員会
〒979-0402
福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35
電話:0240-27-4166　FAX:0240-27-4167

お知らせ

「ふたばの教育」について、ホームページができました。是非ご覧ください。

http://futaba-educ.net/

発行／福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局　〒960-1296　福島県福島市金谷川１番地　福島大学人間発達文化学類支援室内
電話:024-504-2886　FAX:024-548-3181

イラスト:柴田ケイコ　デザイン:南雲みどり、原田敏子　編集:本間美和　制作:ＮＰＯ法人ＨＵＧ